

Mランドささ山校 ニュース Vol. 23

平成21年2月1日発行 篠山自動車教習所 兵庫県篠山市池上569 TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940
発行責任者 豊田文雄 HP <http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

新ホームオープン！

■待望の新ホームがオープンします。

このホームは、仲間と語り合うくつろぎのホール、温泉を思わす岩風呂(二十四時間入浴可)を完備し、全十六室ツインオーシングルで最大三十二名様収容のレディース専用ホームです。名前は「コンスタンツェ」といいます。



ホーム「コンスタンツェ」全容
所内コースそばにあり、管理棟まで徒歩2分

Mランドは「森の中の教習所」を目指していますが、あの癒しの音楽を数多く作曲した偉大な音楽家モーツァルトを生んだザルツブルク(オーストリア)の街をイメージし、「楽・美・愛・真」をキーワードとした教習所づくりをしています。

「コンスタンツェ」とは、モーツァルトの妻の名前です。モーツァルトの作品をモーツァルト以上に大切に思い、彼の名を高めるために尽力した女性です。モーツァルトも彼女のためにソプラノ独唱の「わたしのいとしいコンスタンツェ」という曲を作曲し、歌わせたというエピソードがあります。

自分史の発表

■昨年末より「社員一ヶ月研修」ということで「自分史の発表」を行ないました。

内容は、毎朝一人ずつ十五分の持ち時間で「自分史」を全社員の前で発表し、聴いた者はその感想をハガキに書いて本人に送るといふものです。社員が二十七名です。全員が発表するのにも約一ヶ月かかりますので「一ヶ月研修」としました。

時代に歴史があるように人にも一人ひとりに生い立ち歴史があり、どの社員もそれぞれにドラマのある人生を歩んできたようです。

親のことについて話す時、目を潤ませ声を詰まらせて話す者、家族との絆の大切さ、人との出逢いに感謝を述べる者、成功談もあれば失敗談もあります。励まされた言葉や、苦勞して習得したスキルなどを思い出すことで自分の人生を貫いてきた「軸」は何だったのかが見えてくることもあり、自分自身を振り返り、それをきちんとまとめ発表するということは大変勉強になりました。

一方、聴く側も話し手が同僚なので「特別な人が立派な話をしている」という気持ちではなく、自分の歩んできた人生と照らし合わせながら身近なこととして聴くことができます。

そして発表した社員に対し全員が感想をハガキに書いて送るといふことで、聴きっぱなしにすることなく相手を通して学び、意識の共有、共感共鳴を得る場となりました。また、ハガキを書くこと自体、限られたスペースに感想をまとめるのですから、これも良い勉強になります。

この研修を通して、社員個々の成長と組織にあって一人ひとりが、より深い信頼関係で結びつき、絆をつくるという大きな目的を掲げていましたが、予想した以上の効果があり、十分納得できるものでした。

最後に、過去を振り返った「自分史」に合わせ将来についての「将来史」というものも自分自身考えてみてはと思いました。

(永井 興喜)



発表者の気持ちになって・・・

ささ山ウオッチング

■新年のそれぞれの目標成就を祈願し、餅つきを行ないました。お餅には靈力が宿るといわれ、つきたてをきな粉や砂糖醤油につけて、来所された方全員に食べてもらいました。



餅つきはもちろん初めての体験です



きな粉をまぶして・・・

2年連続トップ!
平成20年学科試験結果
(1月~12月)

■仮免試験	
篠山校	92.3 %
県平均	65.3 %
■本免試験 (1回合格)	
篠山校	74.4 %
県平均	58.6 %

新入社員紹介

今年一月より教習指導員として新たにMランドスタッフに加わりました三名を紹介します。

Mランドの理念を理解し、ゲストの成長に役立てるよう共に学んでまいります。



山本浩貴 INS.

■みなさん、はじめまして。山本浩貴と申します。昭和54年10月6日(29歳)岡山県生まれ、兵庫県加東市に育ちました。



藤原博通 INS.

教習所での主役はゲストのみなさんです。より良い教習生活を過ごしていただくために全力でサポートします。共に学び、成長していきたいです。よろしくお願いたします。

■藤原博通です。昭和51年9月5日(32歳)加東

郡社町(現加東市)生まれ。現在は篠山市に引越し杉に住んでいます。私は多趣味で、やりたいと思ったことは何でもやってきました。

その反面非常に飽き性で、音楽と映画鑑賞以外は長続きしませんでしたが、ここMランドでは一つのことをやり通す粘り強い人間に成長するよう頑張りたいです。よろしくお願いたします。



藤本和万 INS.

■はじめまして。藤本和万です。昭和52年8月21日(31歳)氷上郡山南町(現丹波市)生まれ。

趣味は様々で、野球、スノーボード、海外旅行等々で、人生の夢の中には海外居住もありです。性格は明るく、楽しくかつ慎重にをモットーにしております。入社させていだいてから日も浅く、毎日が勉強中ですが「挨拶」と「譲る心」をもって皆様と共に成長させていたきたいと思います。よろしくお願いたします。

田さんの食養講座

第四回(五回シリーズ)

ライフハーモニー

教育研究所所長

位田隆久

「喰い改めましょう」

友人が担任をしている小学校4年のクラスでの児童の会話です。「最近、腰が痛くて」「僕は胃が重くて」「私は肩が凝って」。

運動会の骨折で救急車が何回も駆けつけたり、短い朝礼に貧血で何人も倒れたりにも驚かなくなりました。アトピーと呼ばれるアレルギー性の皮膚病や肥満による小児糖尿病等々、大人以上に子供の体に変化が起きています。私たちの体は食べ物でできています。年齢に関係なく蔓延する「成人病」は、「生活習慣病」と名前を変えましたが実態は「食源病」です。

さて、前回提唱しました「食の三原則」法食・邦食・報食」を満たす理想的な食は、日本の伝統

食の中にあります。これを取り戻す一番の方法は先人の知恵に学ぶことです。食に関する「転ばぬ先の杖」ならぬ「転ばぬ先の知恵」を少しどうぞ。

まず、「遠くて、近きを、ひふみで食せ」。「遠くて」とは生物分類の「種」の遠い物、例えば肉は、私たちと同じ哺乳類である牛や豚より鳥類、さらに遠い魚類が望ましいのです。草食動物である牛に肉骨粉(牛・羊・豚)を共食いさせた結果が狂牛病であることを忘れてはなりません。「近きを」とは地産地消です。「三里四方を食せば病無し」と言います。フードは風土、篠山に住む人は篠山の物を食べるのが基本です。

そして、「ひふみで」とは一二三と数えながら、よく噛んで食べなさいという事です。楽しい古歌を紹介しましょう。「つるかめの齢(よわい)願わばつるつると 飲まずかめかめかめよかめかめ」。

次に、「春苦み夏は酔の物秋辛み 冬は油と心して食せ」。季節によって食

材や料理の仕方も変わります。夏を過ぎるとトマトやキュウリは美味しくなくなり、欲しくなくなるのが自然です。年中出回る食材に加え、伝統の料理方法を忘れた結果、私たちの体は季節を失い、自分の体の声が聞こえなくなっています。自分の体との間合いが取れないのが病気です。車の運転での間合い、車間距離が取れないと事故。ご用心ご用心。

最後に、「人間は自然から遠ざかるほど病気に近づく」。心耳を澄まして自然(体)の声を聞きましょう。「食の三原則」に従って、毎日の食事を見直しましょう。「悔い改め」ならぬ「喰い改め」でございませす。

最後に、「人間は自然から遠ざかるほど病気に近づく」。心耳を澄まして自然(体)の声を聞きましょう。「食の三原則」に従って、毎日の食事を見直しましょう。「悔い改め」ならぬ「喰い改め」でございませす。

◆位田隆久先生紹介◆



1949年兵庫県高砂市生まれ
元報徳学園校長・社会教育家

合掌

編集後記

■インフルエンザの猛威にスタッフ数名がダウンしましたが、なんとかシーズン前には終息しそうです。

二月三日は節分、そして四日は立春と暦の上では一足先に春を迎えます。早春の風は冷たく寒さはまだまだ厳しいものがありますが、生命の息吹の時季への期待でしょうか、どこかウキウキする季節です。

三日には待望の新ホーム「コンスタツエ」がオープンの運びです。どのようなゲストが訪れ、どのようなドラマがこのホームで繰り広げられるのか、これもまた、ウキウキした気持ちでお迎えする準備をしております。

(文)



コースより北方にそびえる三嶽山を望む